

大宰府条坊跡

第99次発掘調査

筑紫野市文化財調査報告書

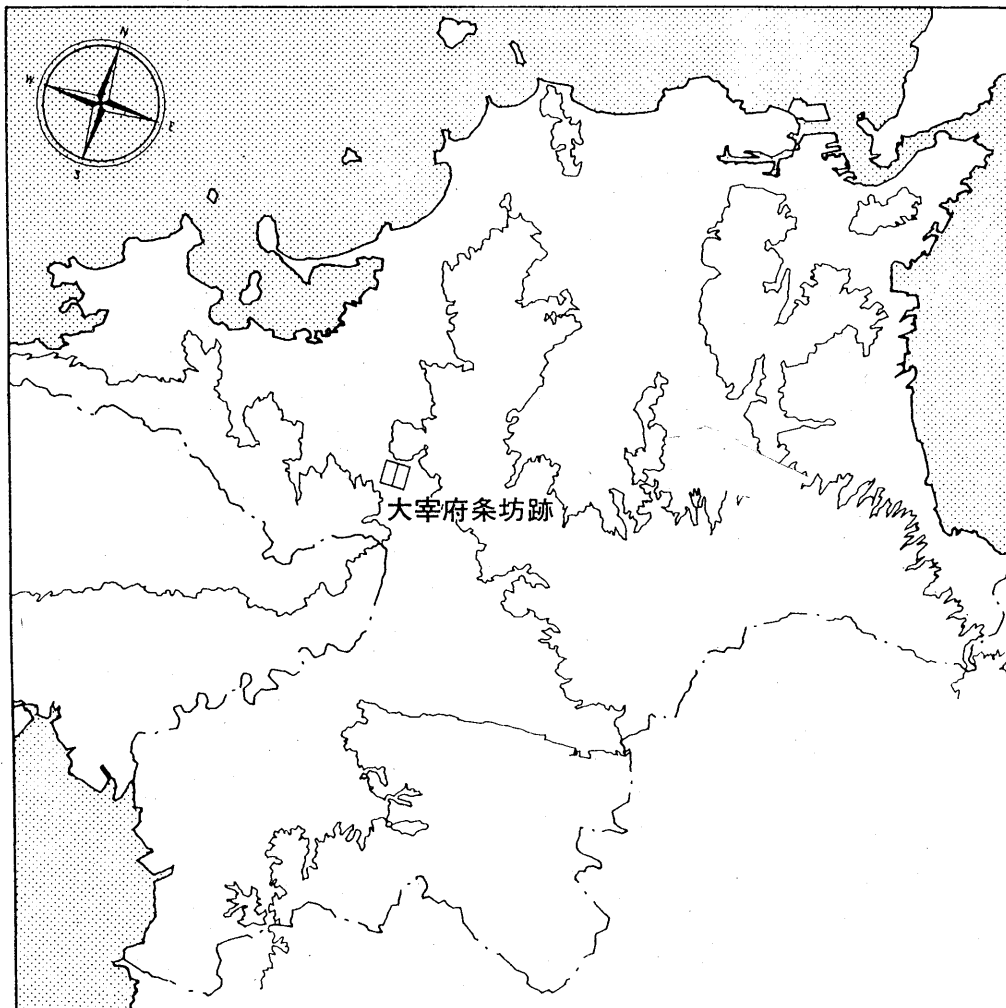
第52集

1997

筑紫野市教育委員会

大宰府条坊跡

第 99 次発掘調査



序

筑紫野市は福岡市と久留米市のほぼ中央に位置します。東西から山々が迫り、その間に肥沃な平野をもつ当市は、太古から交通の要衝として栄えてまいりました。今日までの発掘調査でも弥生時代の遺跡からは、中国や朝鮮半島で製作された青銅器や陶磁器などが発見され、また奈良時代には市の北部が大宰府条坊の一部だったようです。この大宰府から豊前へ通じる官道も当市を通り、近年の発掘調査では万葉集に詠まれた蘆城駅家の跡と思われるものも発見されました。江戸時代においても長崎街道、日田街道、薩摩街道が通り、筑前六宿に数えられる原田宿、山家宿がありました。そして今日、九州縦貫自動車道、国道3号線、同南バイパス、国道200号線、同冷水バイパス、国道386号線、鳥栖・筑紫野有料道路、JR鹿児島本線、JR筑豊本線、西日本鉄道大牟田線が通っています。ここに現在8万余の人々の暮らしがあり、その数は年々増加しております。

福岡が日本におけるアジアに開かれた門戸と位置づけられるならば、筑紫野市は九州におけるクロスロードと言えましょう。このような歴史に育まれた当市には、たいへん多くの遺跡があります。

福岡市のベットタウンとして、発展が進む当市には様々な開発が行われ、文化財に大きな影響を及ぼしております。今日的な人々の営みのなかで、後世に伝えて行くべき義務を負う文化財を保護するため、さらに努力を重ねる所存でございます。

平成9年3月31日

筑紫野市教育委員会
教育長 永渕 正敏

例 言

- 1, 本書は自己専用住宅建設に伴い筑紫野市教育委員会が、実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
- 2, この調査は筑紫野市教育委員会が、都市計画道路建設に伴う代替用地として埋蔵文化財の発掘調査を実施した。
- 3, 調査対象地は筑紫野市大字杉塚166番地、861.93㎡である。
- 4, 現地での発掘に係る実測・写真撮影は奥村俊久が担当するとともに大成ジオテック株式会社福岡支店に空中写真測量を委託した。
- 5, 出土遺物の実測は土器を奥村俊久が行った。
- 6, 製図は有限会社埋蔵文化財サポートシステムに委託した。
- 7, 出土遺物の写真撮影はフォトハウスおかに委託した。
- 8, 遺構番号は、発掘現場において何らかの完結する遺構になると考えられるものを、頭にSを冠し、001から通し番号を付け、単体で完結しないピット等は頭にPを冠し、001から番号を付した。

報告に当たっては、遺構の性格づけを行い、竪穴式住居跡をSI、道路状遺構をSF、土壇墓・木棺墓をST、溝状遺構をSDの略号を与え、その後に発掘現場においてSの後に付けた番号をそのままに付した。ピット等については略号をSPとし、後にそのままP番号を付した。また、今回は大宰府条坊跡第99次発掘調査であることから、頭に99を付すことにした。

目 次

	頁
I 調査に至る経過	1
II 位置と環境	1
III 調査の内容	4
1. 調査概要	4
2. 竪穴式住居跡	4
(1) 99SI007	4
3. 道路状遺構	5
(1) 99SF002	5
4. 木棺墓・土壇墓	8
(1) 1ST003	8
(2) 1ST004	9
(3) 1ST005	9
(4) 1ST008	9
(5) 1ST009	10

(6) 1ST011	10
(7) 1ST012	10
5. 溝状遺構	10
(1) 1SD001	10
(2) 1SD006	11
IV まとめ	11

挿 図 目 次

	頁
第1図 大宰府条坊跡第99次発掘調査地点周辺遺跡分布図（縮尺1／25,000）	2
第2図 大宰府条坊跡第99次発掘調査地点周辺地形図（縮尺1／5,000）	3
第3図 99SI007実測図（縮尺1／40）	4
第4図 99SI007出土遺物実測図（縮尺1／3）	4
第5図 99SF002側溝断面実測図（縮尺1／30）	5
第6図 99SF002出土遺物実測図（縮尺1／4）	6
第7図 99SF002出土遺物実測図（縮尺2／3）	7
第8図 99SF002出土遺物実測図（縮尺1／2）	7
第9図 99ST003～005、008、009実測図（縮尺1／30）	8
第10図 99ST011・012実測図（縮尺1／60）	9
第11図 99ST003、008、011出土遺物実測図（縮尺1／3）	9
第12図 99ST004、012出土遺物実測図（縮尺1／2）	10
第13図 99SD006断面実測図（縮尺1／40）	11
第14図 99SD006出土遺物実測図（縮尺1／3）	11
第15図 大宰府周辺官道ルート図	13

付 図

付図 大宰府条坊跡第99次発掘調査遺構配置図（縮尺1／100）	1 葉
---------------------------------------	-----

I 調査に至る経過

平成2年7月9日付けで、筑紫野市都市計画課より都市計画道路建設に伴う移転補償用地として筑紫野市教育委員会に筑紫野市大字杉塚166番地、861.93㎡について、文化財有無の照会があった。市教育委員会は同2月16日に試掘調査を実施した。試掘調査の結果、奈良または平安時代と推定される溝状遺構や土壌、ピットが検出され、推定大宰府条坊跡域内にはいることから、大宰府跡に関連する遺跡の存在が予測された。平成2年7月9日付けで建築者の大田優氏から埋蔵文化財発掘の届出が提出され、市教育委員会では直ちに福岡県教育委員会に進達した。県教育委員会からは発掘調査の指示を受け、申請者に連絡するとともに、筑紫野市教育委員会で発掘調査を実施することとし、平成2年7月13日付けで埋蔵文化財発掘調査の通知を行った。発掘作業は平成2年8月10日まで実施し、平成3年3月30日まで資料整理を行った。

なお、調査関係者は下記のとおりである。

総 括	筑紫野市教育委員会	教 育 長	永 淵 正 敏
庶 務	筑紫野市教育委員会	社会教育課 課 長	川 原 孝 之
		社会教育課 文化財係 係長	山 野 洋 一
		社会教育課 文化財係 主事	奥 村 俊 久
発掘調査	筑紫野市教育委員会	社会教育課 文化財係 主事	奥 村 俊 久

II 位置と環境

筑紫野市は福岡市と久留米市のほぼ真中に位置し、東から三郡山塊、西から脊振山塊が迫り、その間を、有明海に注ぐ筑後川の支流である宝満川や博多湾に注ぐ御笠川の支流である鷺田川などの河川により狭長な平野が形成される。この狭長な平野部北側の太宰府市には大宰府政庁が置かれ、筑紫野市北部にかけて条坊制が敷かれたと考えられている。政庁の背後には大野城、博多湾側には水城、有明海側には基肄城が築かれている。

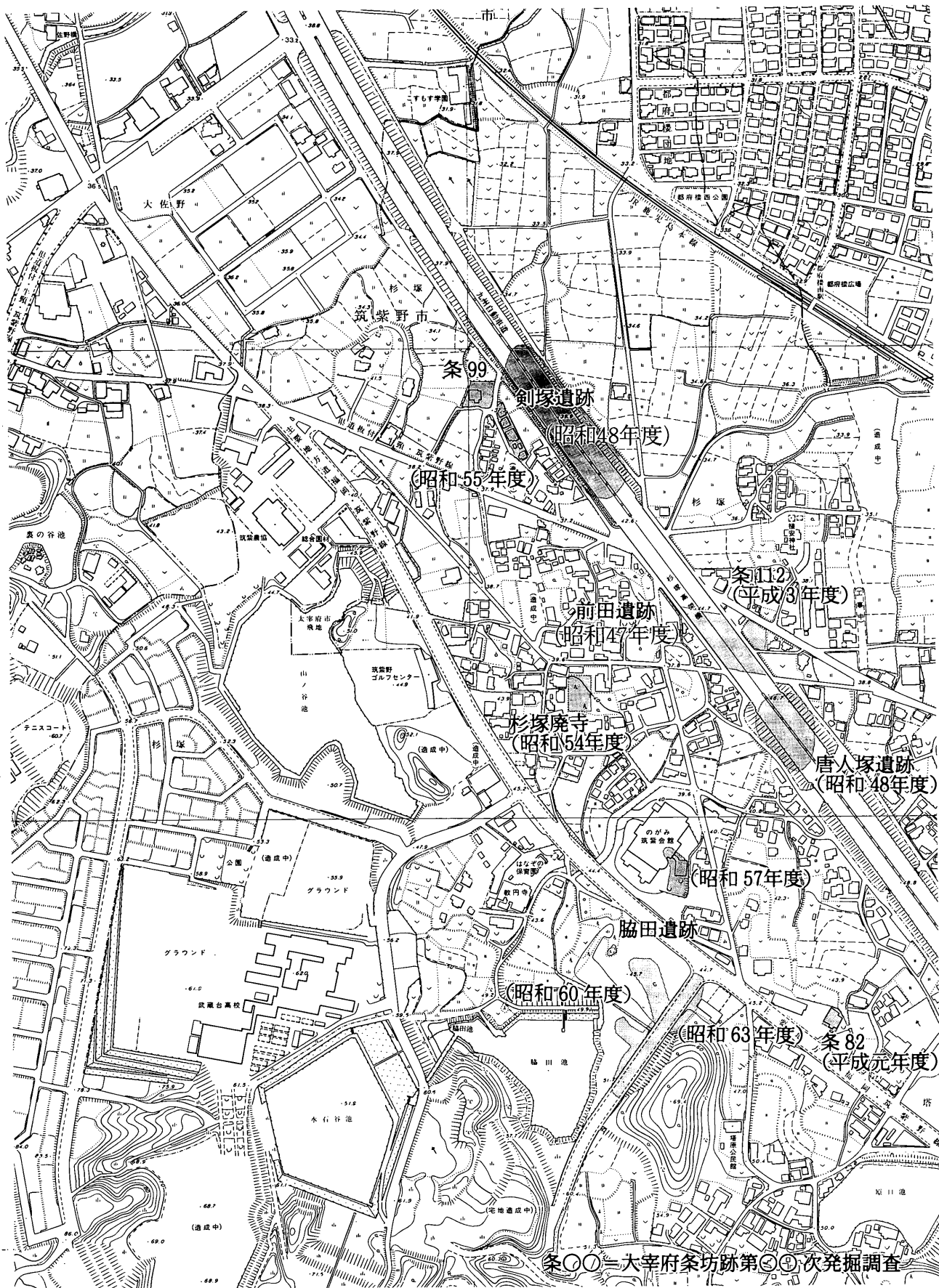
かつて「遠の朝廷」とよばれたこの地域は、その地勢から九州北部沿岸部と九州内陸部を結ぶ最も平坦なルートであり、このことから数多くの遺跡が所在する。今回の調査地点は推定条坊では右郭16条11坊にあたる。隣接する丘陵部は剣塚遺跡があり、昭和48年に九州縦貫自動車道建設に伴い福岡県教育委員会が、また、昭和55年には宅地造成に伴い筑紫野市教育委員会が発掘調査を実施している。その結果、弥生時代前期の甕棺墓をはじめ、古墳前期の方墳や古墳時代後期の前方後円墳、古代の炭焼窯、中世の瓦窯などが検出されている。また南側300mには8世紀後半代創建と推定される杉塚廃寺がある。さらにその東側には前田遺跡、唐人塚遺跡があり、さらに山田寺系の瓦が出土している塔原廃寺に至る。

註 参考文献「IV まとめ」参照



第1図 周辺遺跡分布図

- 01 大宰府条坊跡 02 大宰府政庁 03 観世音寺 04 井ノ尻遺跡 05 大宰府条坊跡第99次発掘調査地点 06 釧塚遺跡 07 釧塚古墳 09 杉塚廃寺 10 大坪遺跡 11 大門遺跡 12 前田遺跡 13 唐人塚遺跡 14 脇田遺跡 15 塔原遺跡 16 塔原廃寺 17 桶田山遺跡 18 武蔵寺跡 19 道場山遺跡 20 堀池遺跡 21 峯畑遺跡 22 二日市宿 23 般若寺跡 24 通り浦遺跡 25 五穀神社遺跡 26 カケ塚西遺跡 27 カケ塚東遺跡 28 針摺遺跡 29 大曲遺跡 30 野黒坂遺跡

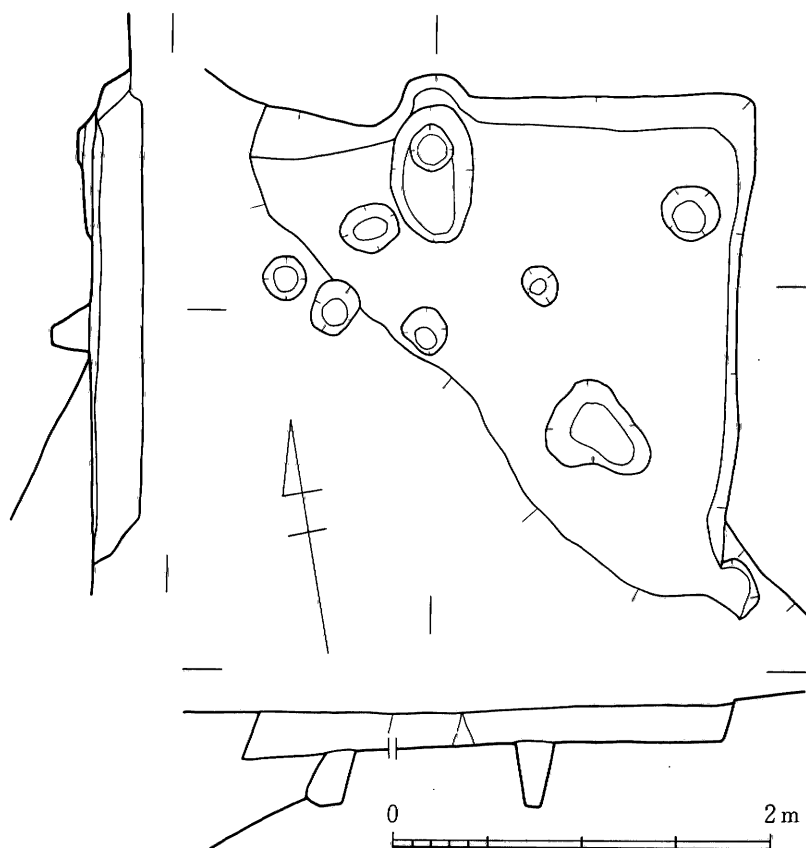


第2図 大宰府条坊跡第99次発掘調査地点周辺地形図

Ⅲ 調査の内容

1. 調査概要

調査区は剣塚遺跡が所在する丘陵の北西縁辺部で、北側の水田面とは1.5m程の比高をもつ。遺構検出面は水田が営まれていたこともあり、平坦であるが、丘陵頂部側の削平が著しい。また、西半には畝が走る。畝は他の主要遺構の中で最も新しい。遺構は道路状遺構と木棺墓、及び溝状遺構、土壇、ピットを検出した。



第3図 99SI007 実測図（縮尺 1/40）

2. 竪穴式住居跡

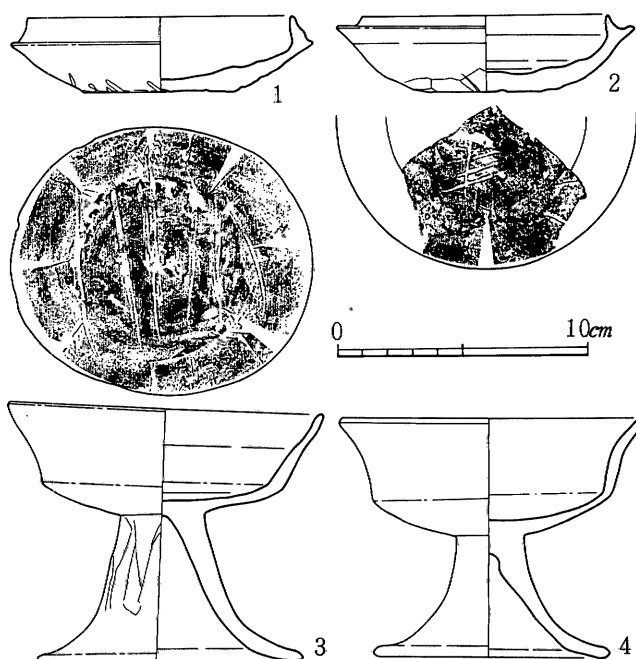
(1) 99SI007

(第3図 図版3)

調査区中央部で検出した方形プランの竪穴式住居跡である。SD002に切られ、遺構の大半を失う。北側壁面にはカマドが設けられており、このカマドが壁体中央に設置されていたと仮定するならば、東西壁は3.4mと推定される。壁は20cm程が残るが、カマドは粘土が少なく、残りが悪い。

遺物（第4図 図版7）

1・2は須恵器の坏身である。SD002に近い位置より出土した。1は完形で、口径12.1～10.5cm、器高3.1cmを測り、や



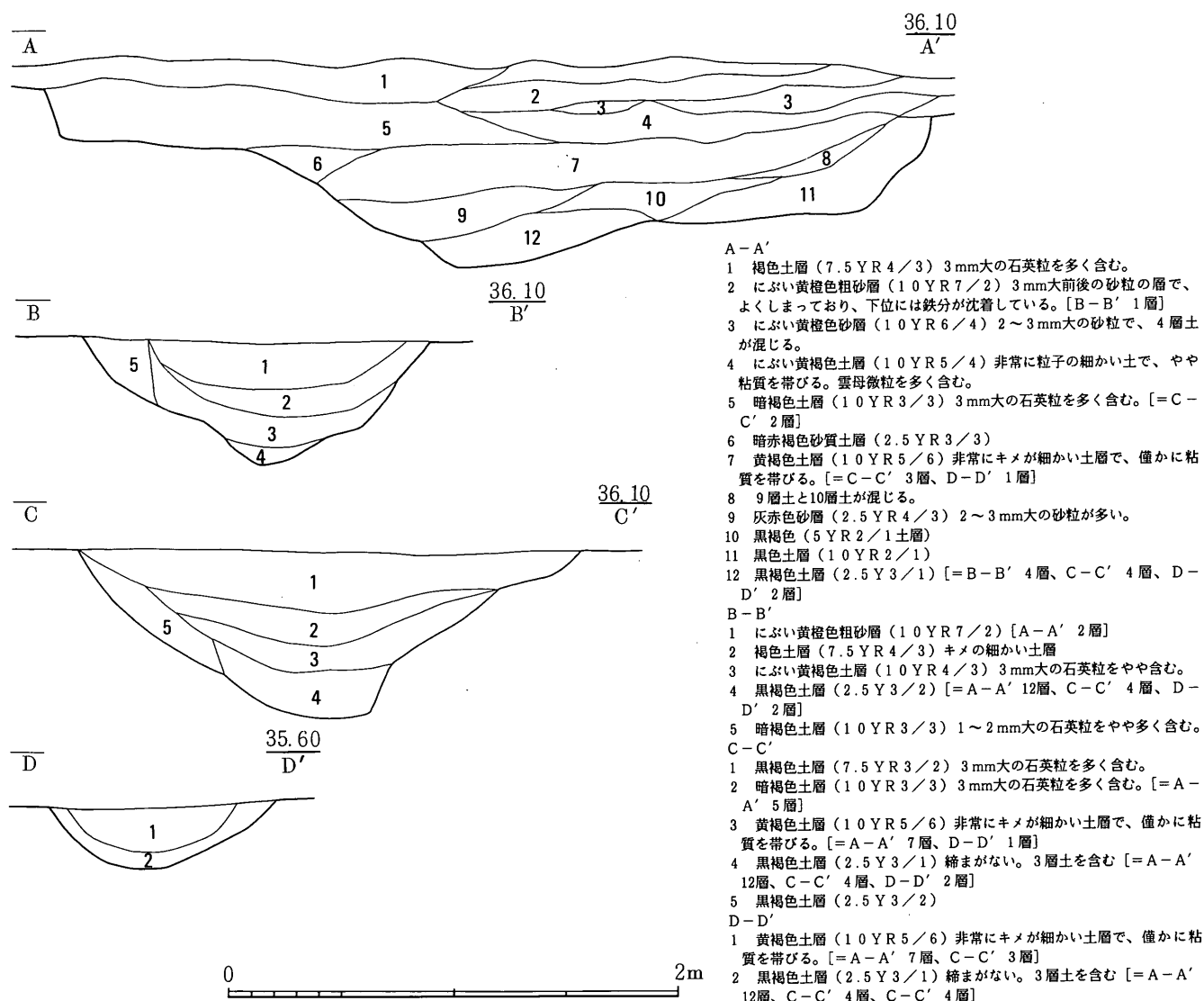
第4図 99SI007 出土遺物実測図（縮尺 1/3）

やひずんでいる。底部は手持ちのヘラケズリが施され、ヘラ記号を有す。2は1/5程の破片で、復元口径9.8cm、器高3.1cm、脚裾径10.5cmを測る。2も1と同様に手持ちのヘラケズリが底部に施され、ヘラ記号を有す。3・4はカマド脇から出土した土師器の高坏で、いずれも完形である。3は口径12.5cm、器高10.4cmを測る。胎土は良質のキメが細かい粘土を用い、表面には更に化粧土を塗布する。全体に磨滅しているが、脚筒部外面はヘラによるミガキが施され、内面は横方向のヘラケズリが施される。そのほかの部分の概ねヨコナデで仕上げられるが、坏部内面は黒色のカーボン状のものが付着し明瞭でない。4はさらに磨滅が著しい。口径12.2cm、器高9.6cm、脚裾径9.5cm測る。3に比べ口縁部の外反が強い。調整は明瞭さを欠くが、3と同様の調整が行われているようである。

3. 道路状遺構

(1) 99SF002 (第5図 図版3・4)

SI007を切り、SF005、SF011に切られる。路面は失われているが、両端に側

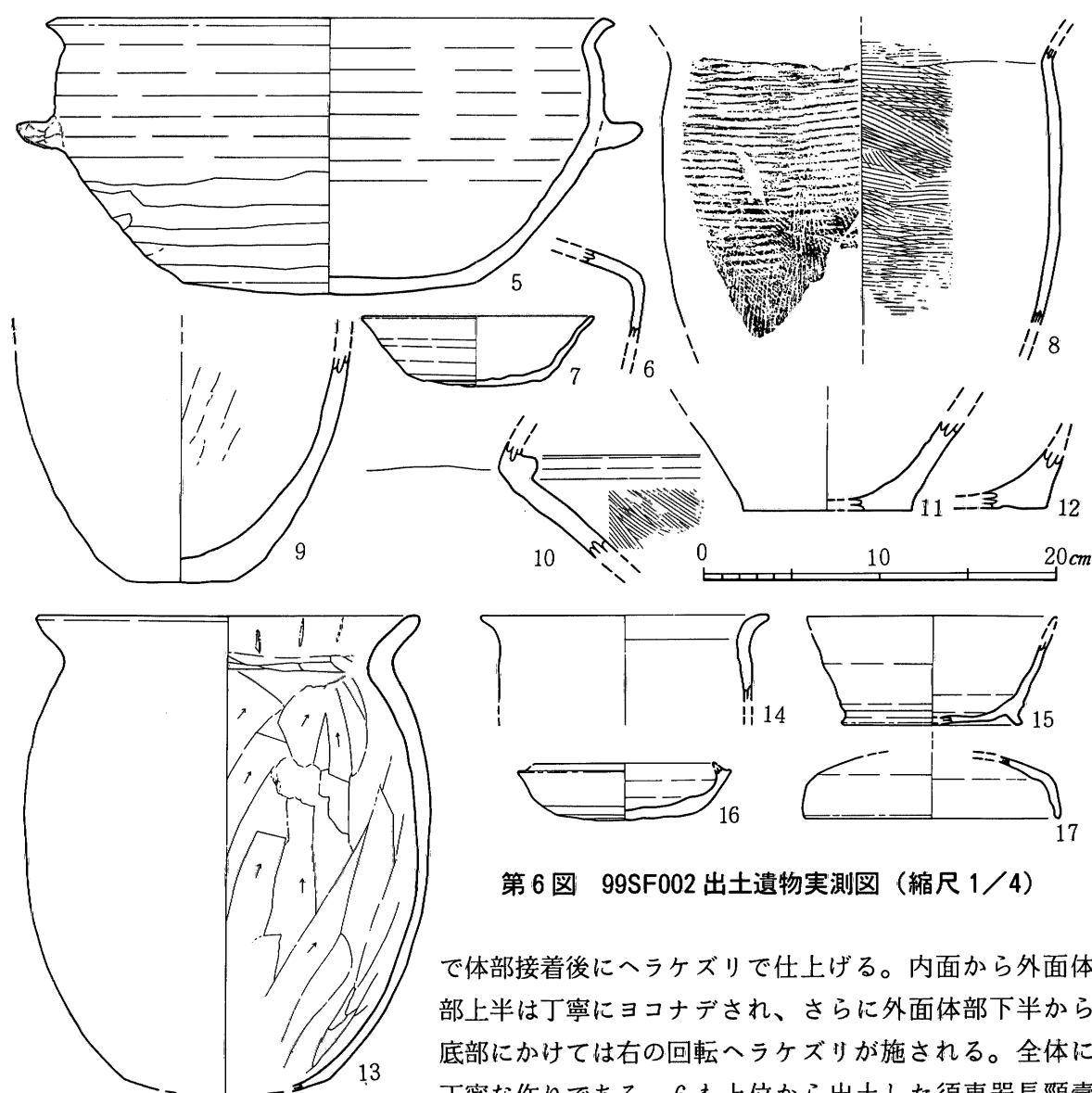


第5図 99SF002 側溝断面実測図 (縮尺 1/30)

溝をもち、調査区を斜めに横切るように検出された。主軸をN-54°-Wにとり、南東方向に上っている。幅員は側溝の芯心で11m、内側で9mを測る。側溝はかなりみだれているが、比較的形状が整っている部分で幅1~1.5mを測る。埋土は整層堆積しており、故意に埋められた状況は見られない。

遺物（第6~8図 図版7）

5~12は西側側溝(S010)から、13~17は東側側溝(S002)から出土した。5は須恵器の鉢で、側溝の上位より出土した。ちょうど中心より1/2余りを欠失する。口径32.2cm、器高15.7cmを測る。口縁部は短く外反し、頸部下に体部最大径をもつ。体部上位の把手は手握



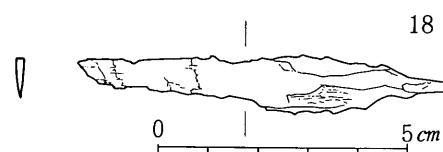
第6図 99SF002 出土遺物実測図（縮尺1/4）

で体部接着後にヘラケズリで仕上げる。内面から外面体部上半は丁寧にヨコナデされ、さらに外面体部下半から底部にかけては右の回転ヘラケズリが施される。全体に丁寧な作りである。6も上位から出土した須恵器長頸壺の肩部と体部の境部分の小片である。肩部と体部の境は

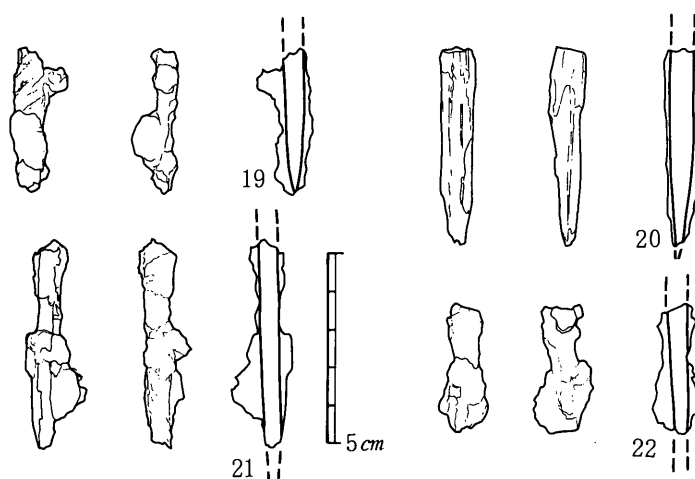
屈曲し、明瞭な稜線をもつ。内面調整はヨコナデされるが、外面は肩部が回転ヘラケズリ、体部はヨコナデが施されるが、屈曲部から2cm程下にはヘラケズリが認められる。7は土師器の坏で口径13.1~12.8cm、器高4cm、底径8~7.6cmを測る。体部は直線的に開き、口縁部は僅かに外反する。体部調整は内外面ともヨコナデされ、内面底部はナデ、外面底部はヘラ切りされる。8~12は弥生式土器で8~10は終末期、11・12は中期のものである。8は長胴甕の破片で外面はタタキが残存部全体に施され、内面は横方向の刷毛目が施される。丁寧な作りの甕である。9は甕の下半部で、肉厚な作りである。外面は磨滅がひどく調整は明瞭でないが、内面は僅かに縦方向のナデがみられる。使い込まれた感を受ける。10は中型甕の頸部屈曲部で1条の断面「コ」字状の凸帯が巡る。11・12は平底の甕の底部小片である。13は土師器の甕で、2/3余りを欠失する。短く外傾する口縁部から、緩やかな「く」字状を呈す頸部を経、胴部へ至る。胴部はやや長胴を呈し、中位にゆったりとした張りをもつ。底部は中央部を欠失するが、レンズ状を呈すと推定される。外面調整は使い込まれたような磨滅が著しく不明瞭であるが、胴部に僅かに刷毛目が認められる。口縁部内面には刷毛の木口による圧痕が認められ、横方向の刷毛目が施されるが、目は極めて浅い。胴部内面はヘラにより粗く搔き上げる。14は小形の土師器甕の小片で、口径は16.4cmを測る。短い口縁部は大きく外反し、胴部は張りが少ないようである。全体に磨滅が著しく調整は不明瞭であるが、内面胴部はヘラケズリされる。15・16は須恵器の坏蓋である。15は側溝上位から出土した小片である。体部は長く直線的に外傾し、平坦な底部との境の屈曲部に断面「コ」字状の高台が外傾して貼付される。16は口縁部周辺の遺存度が低い、概ね1/2が残っている。口

径10.2cm、器高3.2cm、受部径12cmを測る。立ち上がりは短く、内傾し、受け部は外方に僅かに引き出される。底部は比較的平坦で、体部下位から右回りの回転ヘラケズリが施される。さらに底部には板状圧痕が認められる。焼成は

悪く、全体に磨滅が進んでいる。17は側溝中位下部から出土した土師器坏蓋の小片である。体部は短く、やや外傾するが、口縁部では直立気味になる。天井部は比較的平坦である。口縁部、体部はヨコナデされる。18は東側側溝上部よ



第7図 99SF002 出土遺物実測図 (縮尺 2/3)



第8図 99SF002 出土遺物実測図 (縮尺 1/2)

り出土した刀子である。全長74mm、背幅2mmと小型のもので、関部は明確ではないが、ほぼ中央部まで柄の木質が残り、刃部長は35mm程と考えられる。19～22は西側側溝から出土した鉄製の釘である。錆が多く、また木質の付着は認められない。

4. 木棺墓・土墳墓

(1) 99ST003

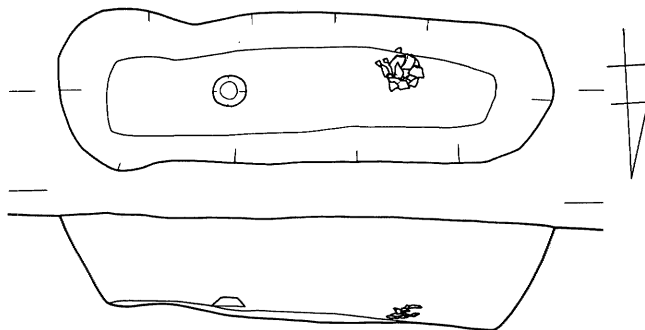
(第9図 図版4)

調査区の東側で検出した。主軸をN-93°-Eにとり、平面プランは198×30cm、深さ40cmを測る。床面は155×30cmで、中央東側に1枚(23)、中央西側南壁際に2枚(24・25)の土師器坏が供献されていた。

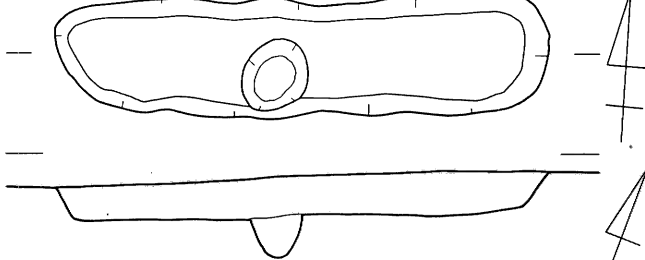
遺物(第11図 図版7)

23～25はいずれも土師器坏である。それぞれ、口径12.3～12.1cm・12.2～11.9cm・11.8～11.5cm、器高3.8cm・3.6cm・3.2cm、底径7～6.4cm・7.5～7.2cm・7.5～7.2cmを測る。体部は大きく外傾して立ち上がり、23・25は口縁部がやや外反する。底部はヘラ切り離しで、24・25は板状圧痕が残る。内外面とも口縁部から体部にかけてヨコナデされ、内面底部はナデで仕上げられる。

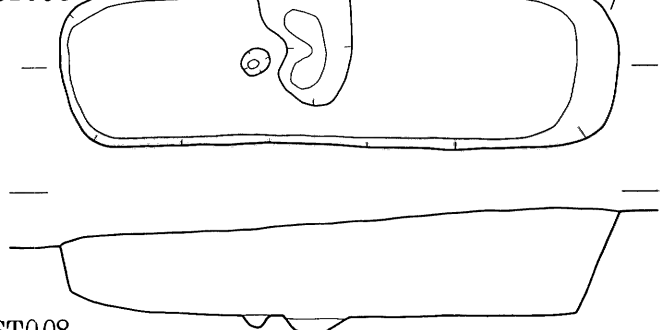
ST003



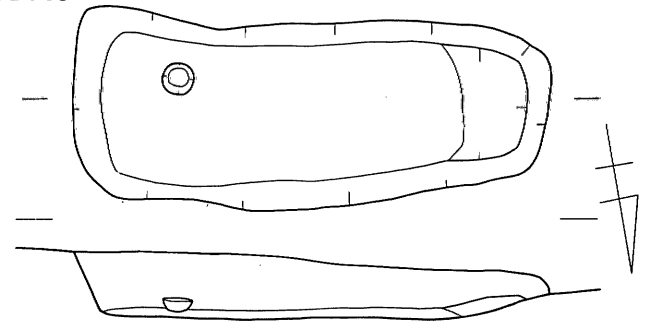
ST004



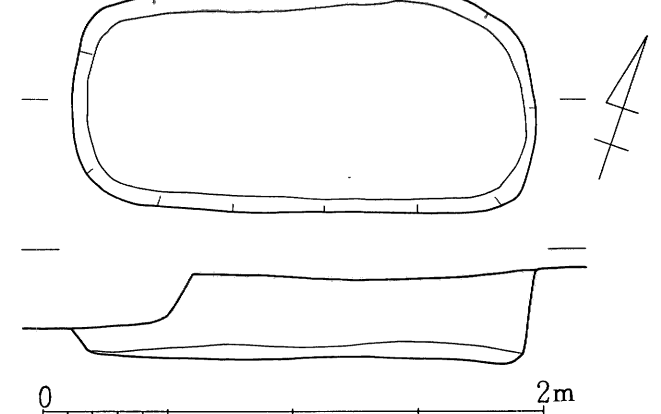
ST005



ST008



ST009



第9図 99ST003～005,008,009 実測図(縮尺1/30)

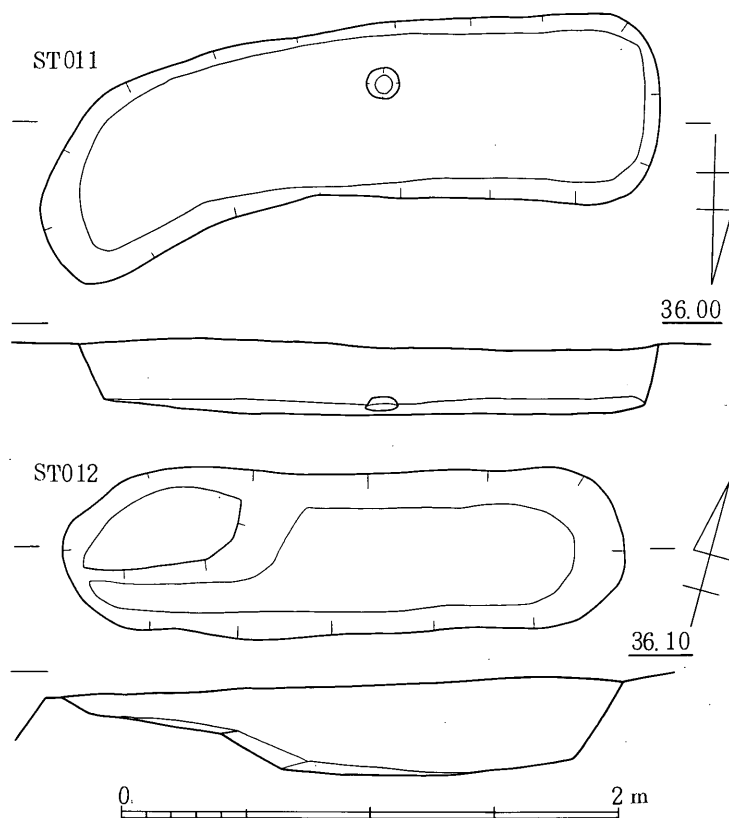
(2) 99ST004

(第9図 図版5)

ST003の東に隣接して検出した。主軸をN-86°-Eにとり、平面プランは196×45cm、深さ15~20cmを測る。床面は180×30cmで、埋土より釘が出土した。

遺物(第12図)

28・29は鉄製の釘で、いずれも木質が付着する。28は板の外側から釘が打ち込まれている。

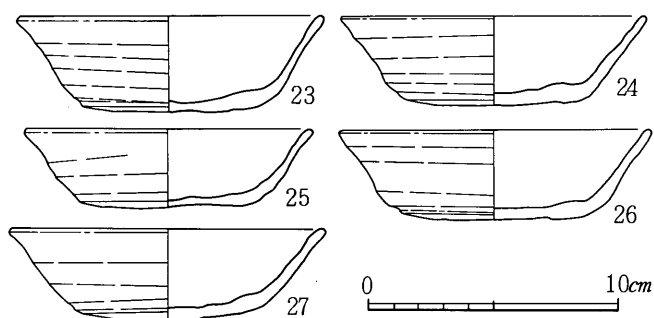


第10図 99ST011・012 実測図(縮尺1/30)

(3) 99ST005

(第9図 図版5)

ST004の東側で、SF002西側側溝を切る状況で検出された。主軸をN-70°-Eにとり、平面プランは223×55cm、深さ40~30cmを測る。床面は202×55cmを測る。



第11図 99ST003・008・011 遺物実測図(縮尺1/3)

(4) 99ST008

(第9図 図版5)

SI007の北側で検出した。主軸をN-99°-Eにとり、平面プランは190×65cm、深さ25cmを測る。床面は170×55cmを測り、東側に土師器坏が供献されている。

遺物(第11図 図版7)

26は口径12.5~11.8cm、器高3.6cm、底径7.3cmを測る。体部は大きく外傾して立ち上がり、

底部はヘラ切り離して、板状圧痕が残る。内外面とも口縁部から体部にかけてヨコナデされ、内面底部はナデで仕上げられる。

(5) 99ST009 (第9図 図版6)

SI005の東側で、SD001に切られる状況で検出した。主軸をN-71°-Eにとり、平面プランは185×90cm、深さ30cmを測る。床面は174×75cmを測る。

(6) 99ST011 (第10図 図版6)

ST008の東側で検出し、SF002東側側溝をきる。主軸をN-89°-Eにとり、平面プランは230×70cm、深さ25cmを測る。床面は215×65cmを測り、ほぼ中央南寄りに土師器坏が供献されていた。

遺物 (第11図 図版7)

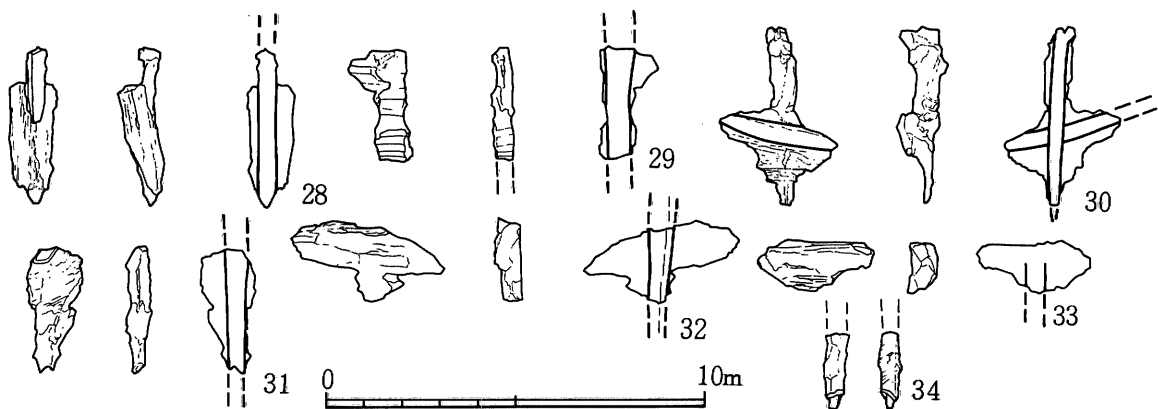
27は口径12.65~12.45cm、器高3.7cm、底径7.7×7.7cmを測る。体部は大きく外傾し、口縁部は僅かに外反する。底部はヘラ切り離して、板状圧痕が残る。内外面とも口縁部から体部にかけてヨコナデされ、内面底部はナデで仕上げられる。

(7) 99ST012 (第10図)

ST011の北東で検出した。主軸をN-75°-Eにとり、平面プランは225×65cm、深さ15~35cm、床面は215×65cmを測る。

遺物 (第12図)

30~34は埋土中より出土した鉄製の釘である。いずれも木質の付着が多い。



第12図 99ST004・012 出土遺物実測図 (縮尺 1/2)

5. 溝状遺構

(1) 99SD001

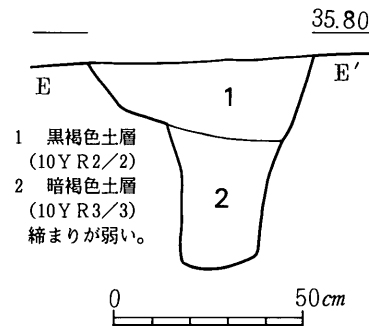
調査区の中央を南北に縦断するように検出された。幅約1m、深さは南端で35cm程を測る断面逆台形の溝状遺構である。切り合いをもつ全ての遺構を切っており、埋土も青灰色の粗い埋土で、近世以降のものと推測される。

(2) 99SD006 (第13図 図版6)

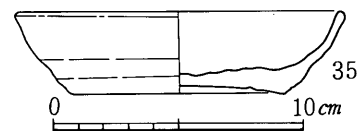
調査区の北側で検出した。主軸を約N-83°-Wにとり、断面は深い逆台形を呈す。もっとも深い部分で深さ53cmを測るが、地形に沿って東側に上っていると考えられ、調査区東側で消失している。

遺物 (第14図 図版7)

35は口縁部の残りが少ないものの概ね1/2が遺存する。口径13.2cm、器高3.3cm、底径15cmを測る。体部は外傾して立ち上がり、中位から立ち上がりを増す。底部は糸きり離しである。胎土には雲母を多く含み、焼成は硬質に仕上がっているが、全体に作りが粗い。内面に煤状のものが付着する。



第13図 99SD006 断面実測図
(縮尺 1/20)



第14図 99SD006 出土遺物実測図
(縮尺 1/3)

IV まとめ

99SF002は99SI007を切り、99SK005、99SK011に切られる。99SI007はカマド脇から出土した3・4の土師器高坏が時期を確定しうる資料として上げられる。体部の傾斜は浅く、底部は強く張る。脚裾部の屈曲も短く弱い。このような形態は柿原古墳群2号墳に近似するものをみることができる。また大曲り遺跡からも類似した坏部が出土している。須恵器の坏は小田富士雄氏編年のVIBに相当すると考えられる。以上のことから本住居跡の時期は7世紀前葉頃に比定できよう。

道路状遺構の時期は路面がすでに失われており、側溝出土の資料に頼らざるおえないが、これも上半部からの出土資料のみである。古い時期の土器の小細片が混ざっているものの、比較的残りが良いものは8世紀後半代にまとまり、この時期を側溝の埋没時期としてよいと考える。

道路状遺構を切る木棺墓・土墳墓等の墳墓群はその配置から一つの墓域を形成するもので、共献された土師器坏より9世紀中葉から後葉に造営されたと思われる。この墓域は道路状遺構を横断しており、この時期以前に道路状遺構は完全に道路としての機能を失っていたといえる。

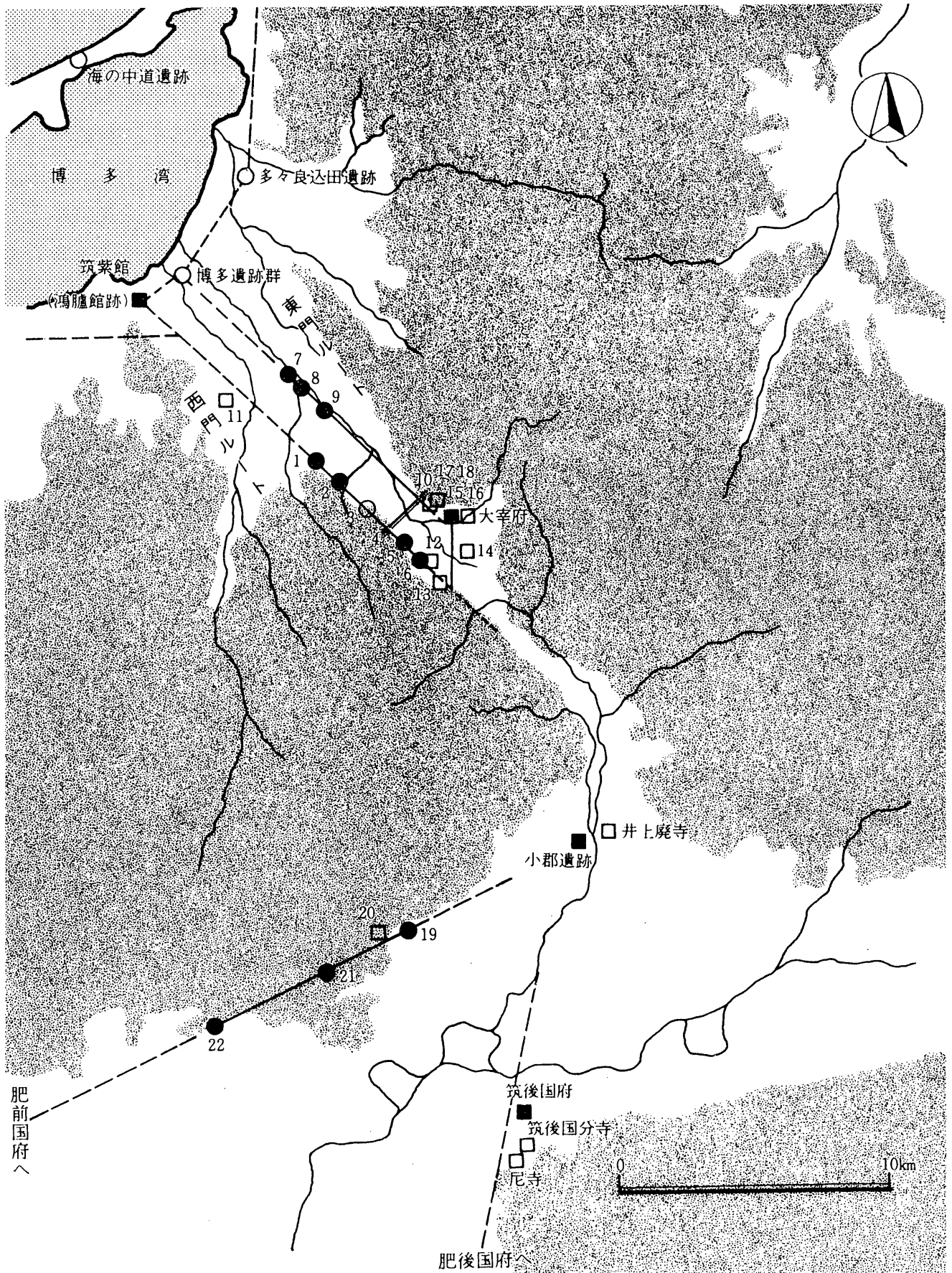
道路状遺構については、山村信榮氏により、大宰府西門ルートとして、鴻廬館から大宰府に至る官道について記述されている。本調査区以北では水城西門を含め4カ所で道路状遺構が検出されているが、本遺跡以南においてはまだ確認されていない。推定ルートを延長すると杉塚廃寺、塔原廃寺の東を通り、大宰府政庁南門より約2600m余りの位置で推定朱雀大路の延長ルートと交差する。大宰府の造営については狭川真一氏の研究に詳しいが、筑紫野市岡田地区遺跡では豊前方面と結ぶ官道を調査中であり、また長岡駅家や俗明院といった大宰府縁辺部に所在が推測される遺跡や城山道等、広義の大宰府都市計画について今後解明していかなければならない問題は多い。

註

山村信榮 「大宰府周辺の古代官道」 九州考古学第68号 1993年 九州考古学会
 狭川真一 「古代都市・大宰府の検討ー墳墓からのアプローチ」 古文化談叢 第23集
 1990 九州古文化研究会

大宰府条坊跡第99次発掘調査地点周辺遺跡参考文献

剣塚遺跡	九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告X X IV	福岡県教育委員会	1978
	剣塚遺跡 筑紫野市文化財調査報告書第10集	筑紫野市教育委員会	1984
杉塚廃寺	九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告IV	福岡県教育委員会	1974
	杉塚廃寺 筑紫野市文化財調査報告書第4集	筑紫野市教育委員会	1979
前田遺跡	九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告X VIII	福岡県教育委員会	1978
唐人塚遺跡	九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告X VIII	福岡県教育委員会	1978
塔原廃寺	塔原廃寺 福岡県文化財調査報告書第35集	福岡県教育委員会	1967
脇田遺跡	脇田遺跡 筑紫野市文化財調査報告書第9集	筑紫野市教育委員会	1984
	脇田遺跡Ⅱ 筑紫野市文化財調査報告書第13集	筑紫野市教育委員会	1986
	脇田遺跡Ⅲ 筑紫野市文化財調査報告書第43集	筑紫野市教育委員会	1994
大宰府条坊跡	第112次調査 筑紫野市文化財調査報告書第31集	筑紫野市教育委員会	1992



第15図 大宰府周辺官道ルート図 (山本信榮「大宰府周辺の古代官道より」)

1. 先の原遺跡 2. 春日公園遺跡 3. 池の上遺跡 4. 水城西門跡 5. 前田遺跡 6. 条坊99次
7. 那珂久平遺跡 8. 板付遺跡G7d 9. 井相田遺跡 10. 水城東門跡 11. 三宅廃寺 12. 杉塚廃寺
13. 塔原廃寺 14. 般若寺跡 15. 大宰府跡 16. 観世音寺 17. 筑前国分尼寺跡 18. 筑前国分寺跡
19. 横田切通し 20. 辛上廃寺 21. 吉野ヶ里遺跡 22. 祇園切り通し

圖 版



調査全景
(上空より)



調査区全景
(南東より水城西門方向を
望む)

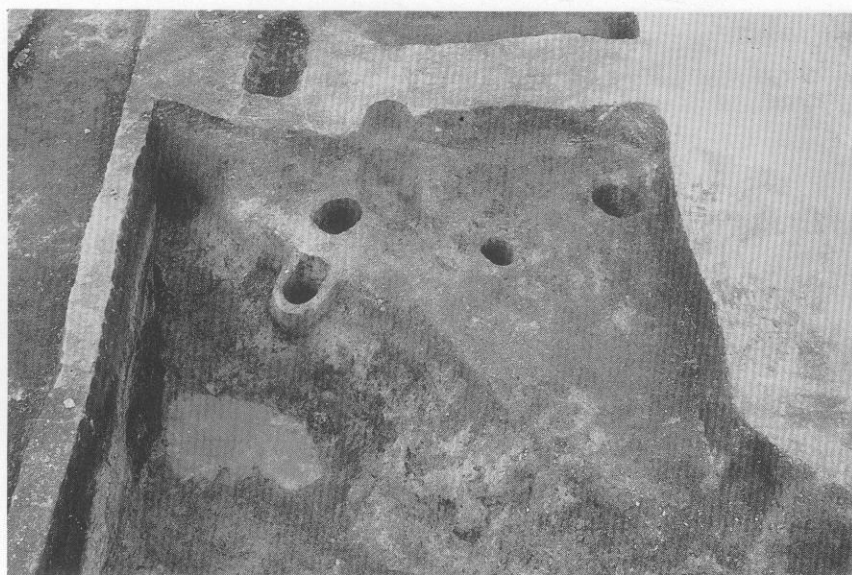
図版 2



調査区全景
(北西方向より筑後方向
を望む)



調査区全景
(西より大宰府政庁方向
を望む)



99 SI 007
(南より)



99 SF 002 東側溝
(A-A' 断面)



99 SF 002 東側溝
(B-B' 断面)

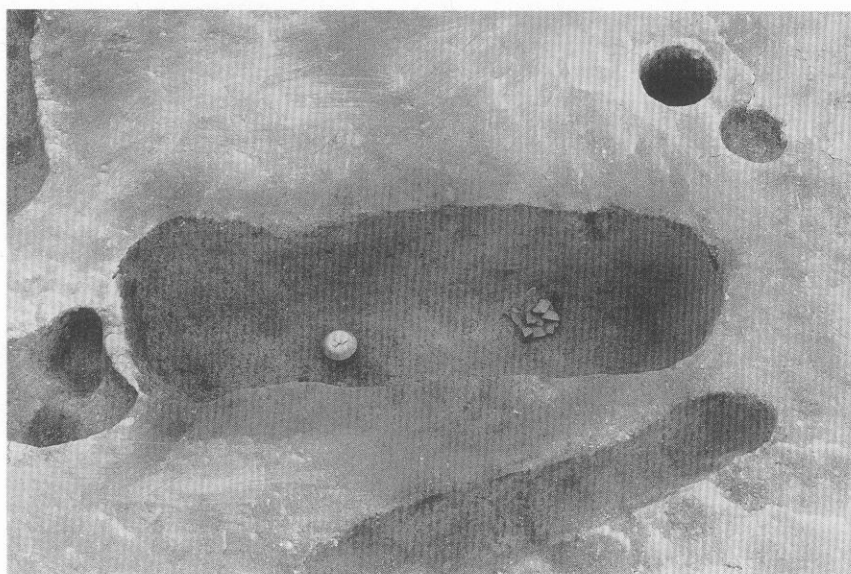
図版 4



99 SF 002 西側溝
(C-C' 断面)



99 SF 002 西側溝
(D-D' 断面)



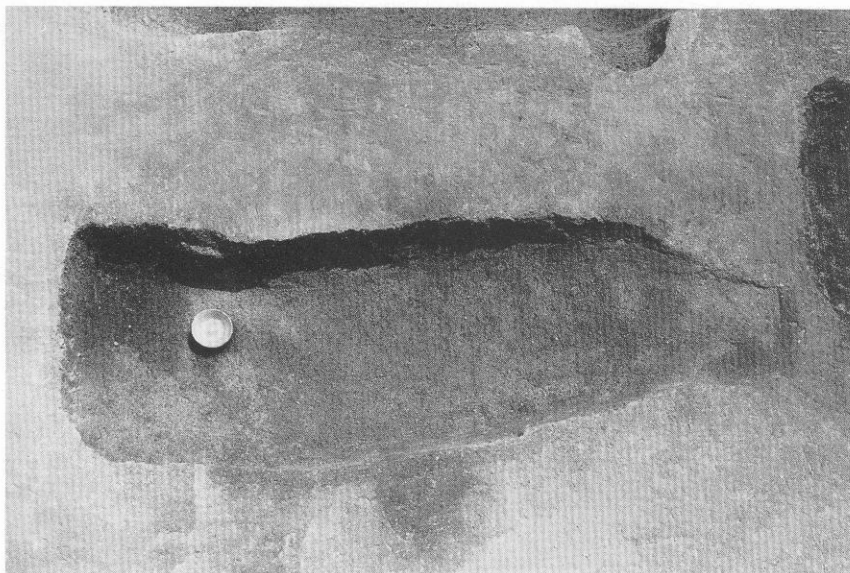
99 ST 003
(北より)



99 ST 004
(北より)

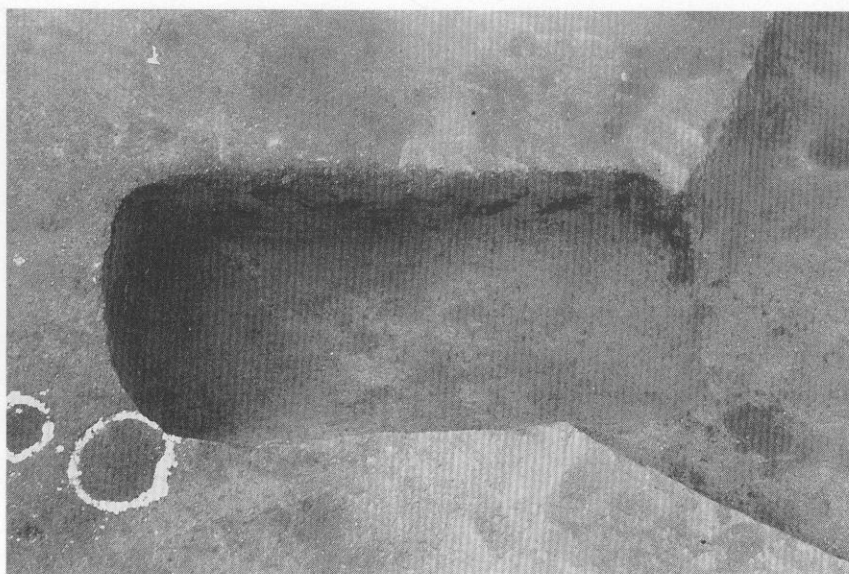


99 ST 005
(北より)

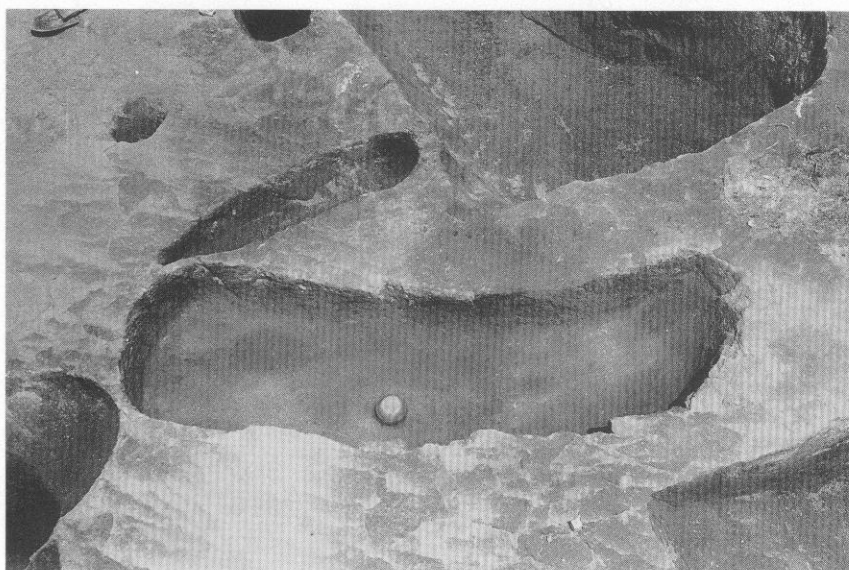


99 ST 008
(北より)

図版 6



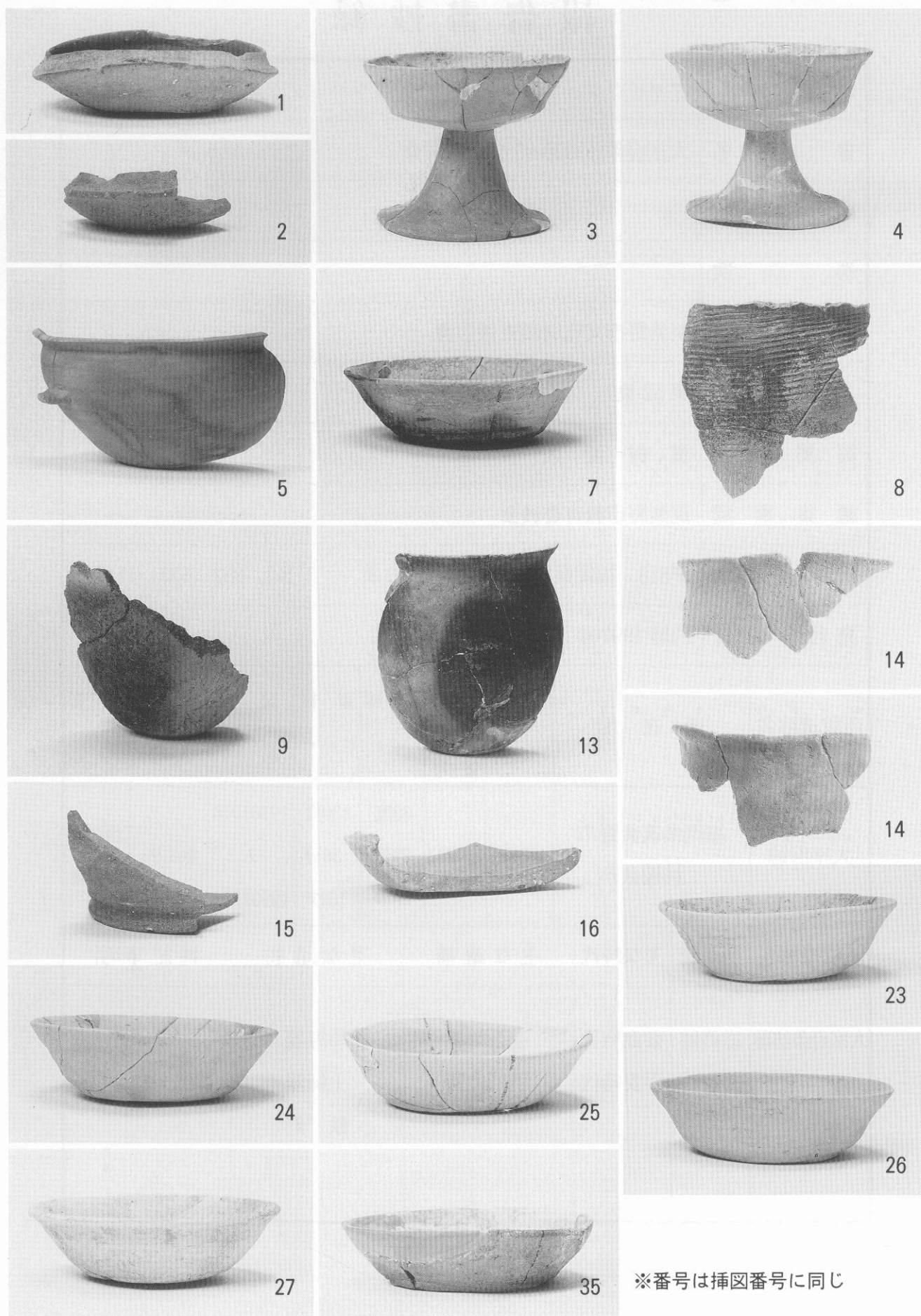
99 ST 009
(北より)



99 ST 011
(北より)



99 SD 006
(E-E' 断面)



※番号は挿図番号に同じ

報告書抄録

ふ り が な	ダザイフジョウボウアト ダイ 99 ジハックツチョウサ								
書 名	大宰府条坊跡第 99 次発掘調査								
副 書 名									
巻 次									
シ リ ー ズ 名	筑紫野市文化財調査報告書								
シリーズ番号	第 52 集								
編 集 者 名	奥 村 俊 久								
編 集 期 間	筑紫野市教育委員会								
所 在 地	〒818 福岡県筑紫野市大字二日市 TEL 092 (923) 1111								
発 行 年 月 日	西暦 1997 年 3 月 3 1 日								
ふ り が な 所収遺跡名	ふ り が な 所 在 地		コ ー ド 市町村 遺 跡 番 号		北 緯 ° ' "	東 経 ° ' "	調 査 期 間	調 査 面 積 (㎡)	調 査 原 因
だざいふあと 大宰府跡	ふくおかけんちくしのし 福岡県筑紫野市 すぎつか 杉塚ほか		402176	210044	33度 29分 56秒	130度 30分 18秒	19901016 19901220	861.93	自己専用 住宅建築
所収遺跡名	種 別	主な時代	主 な 遺 構		主 な 遺 物		特 記 事 項		
大宰府条坊跡	道路跡 墓 地	奈良時代 平安時代	道路側溝 墳 墓		須恵器 土師器 鉄 釘				

大宰府条坊跡

第 99 次 発掘調査

筑紫野市文化財調査報告書

第 52 集

発行 筑紫野市教育委員会
福岡県筑紫野市大字二日市 753-1

印刷 瞬報社写真印刷株式会社
下関市長府扇町 9 - 50

付図 大宰府条坊跡第99次発掘調査遺構配置図（縮尺1/100）

